

はじめに

松伏町では、地域の災害の危険性や避難に関する情報を地図上に分かりやすくまとめた「松伏町地震・洪水ハザードマップ」を作成しました。

災害による被害を最小限に食い止めるためには「自分のことは自分で守る」そして「地域の力を結集して守る」という心構えが大切であり、「いざ」という時に備えて、日頃から様々な事態を想定したり、避難場所や避難経路を確かめておくことが必要です。

このハザードマップを常に身近な場所に置き、災害が発生するおそれのある時や災害が発生した時に、あわてず落ち着いて安全に避難できるよう、家庭や地域、職場などでご活用ください。

目次

- 地震編..... 1
 - 地震ハザードマップとは..... 1
 - 想定される地震..... 1
 - 地震ハザードマップ
 - ～ 揺れやすさマップ..... 2
 - ～ 建物倒壊危険度マップ..... 6
 - ～ 液状化危険度マップ..... 10
 - 地震発生メカニズム..... 11
 - 地震の揺れと想定される被害など..... 12
 - 地震が発生した時の行動..... 13
 - わが家の地震対策..... 14
 - 建物の耐震化..... 15
 - 家庭での消火..... 17
 - わが家の避難地図をつくりましょう..... 18
- 水害編..... 19
 - 洪水ハザードマップとは..... 19
 - 洪水ハザードマップ
 - ～もし、利根川がはん濫したら～..... 20
 - ～もし、江戸川がはん濫したら～..... 24
 - ～もし、荒川がはん濫したら～..... 28
 - ～もし、中川・綾瀬川・元荒川がはん濫したら～..... 29
 - 雨の降り方の程度..... 30
 - 避難行動の種類..... 31
 - 情報の伝達経路..... 31
 - 避難時の心得..... 32
 - 普段からの備え..... 33
- 総合編..... 34
 - 家庭での備え..... 34
 - 地域での備え..... 35
 - 防災関係機関..... 36
 - わが家の避難地図拡大版..... 37
 - わが家の防災メモ..... 裏面

地震編

地震ハザードマップとは

▶ 揺れやすさマップ

「揺れやすさマップ」とは、地盤の状況とそこで起こりうる地震の両面から地域の揺れやすさを震度(計測震度)として評価したものです。

「揺れやすさマップ」は、以下の考え方に基いて作成しています。

- ・計算のための単位は50mメッシュ
- ・実際に発生のおそれがあり松伏町に大きな影響を及ぼす地震を想定
- ・地域の揺れやすさとして、最大震度をメッシュごとに表示

▶ 建物倒壊危険度マップ

「建物倒壊危険度マップ」とは、「揺れやすさマップ」をもとに、建物の構造、建築年次など地域の社会的なデータをあわせることにより地震被害を計算して、建物の被害の度合いを示したものです。

「建物倒壊危険度マップ」は、以下の考え方に基いて作成しています。

- ・構造(木造/非木造)、建築年次と揺れの大きさから建物被害を計算
- ・地域における建物の全壊棟数率をメッシュごとに表示

▶ 液状化危険度マップ

「液状化危険度マップ」とは、建物・堤防・橋梁・ライフライン施設などに影響を及ぼす、液状化の可能性の大きさを判定して示したものです。今回作成した「液状化危険度マップ」は、「揺れやすさマップ」をもとに、松伏町の詳細な地盤情報を活用して作成しています。

想定される地震

地震ハザードマップでは、埼玉県が平成19年度に行った地震被害想定に基づいた上で、松伏町への影響が最大となる地震として、東京湾北部地震、茨城県南部地震、松伏町直下型地震を想定しました。



埼玉県で想定される地震	マグニチュード	松伏町の最大震度
東京湾北部地震(海溝型地震)	7.3	5.9
茨城県南部地震(海溝型地震)	7.3	6.1
立川断層帯による地震(活断層地震)	7.4	5.2
深谷断層による地震(活断層地震)	7.5	5.2
綾瀬川断層による地震(活断層地震)	6.9	5.2

※★印は、破壊開始点(震源)

(出典:埼玉県、平成19年度埼玉県地震被害想定調査)

松伏町直下地震とは

マグニチュード6クラスの地震では、地震の断層が地表に現れない場合があります。こうした地震はいつ、どこで起こるか分からないため、全国どこでも起こりうる地震として、松伏町直下でマグニチュード6.9(町内の最大震度6.2)の地震を想定しました。